

国立国会図書館の古典籍資料

国立国会図書館 利用者サービス部 人文課 古典籍係長
豊田 さおり

1. はじめに

国立国会図書館（以下「当館」）の東京本館に「古典籍資料室」があります。前身は1961年開室の「貴重書室」です。1986年9月に、当館が所蔵する和・漢の古典籍資料及び和・漢・洋の貴重書・準貴重書を集中し、整理から保管までを一元的に行うことを目的として開室しました。現在、担当の職員は、利用者サービス部人文課の課長補佐（古典籍担当）1名、古典籍係の職員8名、非常勤職員1名です。

本日は、当館の所蔵する古典籍資料の収集・保存と利用サービス、さらにはデジタル化についてご紹介したいと思います。

2. 収集

まず、所蔵資料の概要についてご説明します。

古典籍資料室では、和古書、漢籍を中心に約300,000冊を所蔵しています。和古書とは、刊行又は書写の年代が原則として江戸期以前（～1868年）の資料をいい、漢籍（朝鮮本、安南本なども含む）とは、原則として清代以前（～1912年）、又はそれに相当する時期の漢文で書かれた資料を指します。

当館の古典籍資料は、幅広い蔵書構成が特徴ですが、特に江戸時代（1603～1868年）の資料が充実しています。主なコレクションとしては、江戸時代に朝鮮国との外交・貿易実務を担当していた対馬藩宗家の記録類である「宗家文書」1,593冊（重要文化財¹）、江戸幕府の町奉行所²等の記録類である「旧幕府引継書」約8,900冊が挙げられます。そのほか特徴的なコレクションには、本草学、国語学、日本人著作の漢詩文集、江戸文芸書、暦書、中国の族譜・地方誌などがあります。

所蔵資料のうち特に貴重な資料は、貴重書および準貴重書に指定しています。この中には、和古書、漢籍だけではなく、西洋の古典籍や明治時代以降（1868年～）の手稿本、幕

¹ 文部科学大臣が文化財保護法に基づき、重要なものとして指定した有形の文化財。

² 江戸の町の行政・司法・警察など民政全般をつかさどった役所。

末から明治時代初期（19世紀半ば）にかけて発行された新聞・雑誌なども含まれます。2011年10月現在、貴重書は1,258タイトル、準貴重書は789タイトルです。館内で貴重書等指定委員会を開催し、「国立国会図書館貴重書指定基準」および「国立国会図書館準貴重書等指定基準」に基づき指定しています。最近では、2011年6月に第45回委員会が開催され、貴重書3タイトル（奈良時代（710～794年）の古写経、江戸時代の古活字版³、江戸時代前期（17世紀後半）の奈良絵本⁴各1タイトル）、準貴重書2タイトル（江戸時代の絵図、絵本各1タイトル）が新たに指定されました。

次に、収集方針についてご説明します。

当館の古典籍資料のほとんどは、帝国図書館から引き継がれたものですが、現在でも、購入や寄贈などの方法で新たな資料の収集を行っています。当館の資料収集方針書には、「和古書及び漢籍は、文化史又は学術上重要なものを厳選して収集する。特に、学芸史又は出版文化史上貴重な文化財と認められる資料、散逸又は海外流出を惜しまれる孤本又は稀本に留意する。」とあります。具体的には、現在約270タイトルを所蔵する古活字版や、本草学関係の文書類、江戸時代の絵本類などのほか、日本の書物の歴史全般に目を配り、所蔵資料をさらに充実させるような資料を重点的に収集しています。2009年度には、奈良時代の古写経や江戸時代前期の奈良絵本、2010年度には、古活字版や絵図、色刷りの絵本などを購入しました。

3. 保存

ここでは、古典籍資料を収める書庫の概要を中心にご説明します。

古典籍資料の書庫は新館地下7階に位置しています。温度は22℃±2℃、湿度は55%±5%に設定され、低紫外線タイプの蛍光灯を使用しています（ちなみに、古典籍資料室や職員のいる事務室にも同じ蛍光灯を使用しています）。担当の職員が、毎月1回書庫及び通路の清掃を行い、複数の捕虫トラップを設置して害虫がいないか確認しています。

なお、2011年3月11日の東日本大震災において、古典籍資料の書庫に関しては、被害はありませんでした。

古典籍資料の書庫は、貴重書庫（Aランク書庫）、特別本書庫（Bランク書庫）、普通本書庫（Cランク書庫）の3つの区画に分かれています。

貴重書庫には、貴重書・準貴重書など約22,000冊を収めています。書庫の内装は、床、

³ 室町時代末期から江戸時代初期（16世紀末～17世紀前半）にかけて刊行された活字印刷による出版物。

⁴ 室町時代後期から江戸時代前期（16世紀後半～17世紀後半）にかけて作られた色鮮やかな挿絵が入った写本。

壁、天井をヒノキの合板で仕上げています。書架は、引き戸付きの木製書棚でナラ材を用いています。これは、資料に急激な温度・湿度の変化がないようにとの配慮からです。資料は平置きして、運搬する際は木製ブックトラックと桐箱を使用しています。通路とは壁と気密扉で仕切ることによって、書庫内の気圧を高め、扉を開けても通路側から塵埃が入らないように工夫されています。

特別本書庫には、特殊なコレクションや洋書の準貴重書など約 99,000 冊を収めています。内装は通常の本書庫と変わらないのですが、貴重書庫と同じく通路とは壁と気密扉で仕切られています。

普通本書庫には、一般書約 180,000 冊を収めています。内装は通常の本書庫と変わらず、書庫の他の区画からは金網扉で仕切られているだけですが、鍵の管理によって、担当の職員以外が立ち入ることが制限されています。

4. 利用サービス

ここでは、古典籍資料の閲覧・複写・レファレンスなど利用サービスについてご紹介します。

古典籍資料室は、本館 3 階に位置しています。専門室の中では大きな部屋ではありませんが、貴重書席 1 席、一般席 16 席、地図席（大型資料閲覧席）1 席、マイクロリーダー席 8 席、PC 席（電子情報閲覧席）3 席を備えています。

原資料の閲覧は許可制で、「閲覧許可申請書」を提出する必要があります。また、書庫に出納に行く回数を 1 時間に 1 回に制限しているため、事前の予約を推奨しています。なお、貴重書・準貴重書の閲覧には、別に申請が必要です。2010 年度の来室者数は 4,356 人（1 日平均約 15 人）、利用資料数は 27,144 点（1 日平均約 97 点）です。

原資料の複写は、原則として、白黒のマイクロフィルム撮影のみ認めています。既にマイクロフィルムが作製されている資料については、そのマイクロフィルムから複写することができます。また、既にデジタル化されている資料には、画像のプリントアウトサービスがあります。もちろん、インターネットで公開されているデジタル画像は、ご自宅などで自由にダウンロードすることができます。

古典籍資料の利用は、保存に留意する目的から規則に定められた手続が必要です。そのため、一般の資料利用と異なった点が多く、利用者に分かりにくい面があるため、当館ホームページ上のコンテンツ「リサーチ・ナビ」内の「古典籍資料をさがす」ページ（<http://rnavi.ndl.go.jp/oldmaterial/>）で、詳しい利用方法や資料の概要、調べ方などを随時ご案内しています。

また、所管する資料に関する問い合わせには、担当の職員が文書・電話・口頭で回答するレファレンス・サービスを行っています。

利用者が求める資料に行き着くために必要な書誌データの整備も、担当の職員が順次行っています。2011年8月までに、和古書約58,200件、漢籍約11,200件のデータを入力し、「国立国会図書館蔵書検索・申込システムNDL-OPAC」(<http://opac.ndl.go.jp/>)にて公開しています。ただ、データ未入力の資料も残っており、冊子体で刊行された目録を参照することもいまだに多いため、書誌データの遡及入力も課題の一つです。

5. デジタル化

当館は、インターネットを通じてどこからでも蔵書を閲覧できる「電子図書館サービス」の実現を目指して、蔵書のデジタル化を実施してきました。

古典籍資料については、2000年3月から「貴重書画像データベース」というシステムでデジタル画像をインターネット公開しました。画像は、本草関係資料や絵本、絵巻、錦絵、絵図など貴重書を中心に約1,000タイトル(約13,000点)を収録していました。このシステムは、古典籍課(現人文課古典籍係)が所管する小規模なものでしたが、デジタル化をさらに推進していくため、2011年4月をもって全館的なデジタルコンテンツの提供システムに統合することになりました。

現在は「国立国会図書館のデジタル化資料」内の「古典籍資料(貴重書等)」(<http://dl.ndl.go.jp/#classic>)にて古典籍資料のデジタル画像を閲覧することができます。当初は旧「貴重書画像データベース」から引き継いだ画像を提供していましたが、2011年10月18日より約12,100タイトル(約50,600点)が新たに加われました。これらのうち、著作権の問題がない約10,900タイトル(約48,000点)をインターネットで公開しています。

新たに加わったデジタル画像は、2010年度に行った大規模デジタル化事業の成果です。原資料からスキャナを使用してデジタル化を行い、カラーの画像を作成しました。デジタル化の対象となった古典籍資料は、合計で約73,000冊(このうち貴重書・準貴重書は約20,000冊)、コマ数で換算すると約527万コマに及びます。先述の通り、10月18日にはこのうちの約12,100タイトル(約50,600点)の画像の提供を開始しました。今後も準備が整ったものを順次公開していく予定で、最終的にデジタル画像を閲覧できる古典籍資料は、飛躍的に増加する見込みです。

以上、簡単ではありますが、国立国会図書館の古典籍資料についての説明を終わります。